

SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

2013.5.8 (No.2732)
週報 No. 41

第2560地区ガバナー／鈴木重 彦
会 長／杉 山 幸 英
会長エレクト／丸 山 行 彦 (クラブ奉仕A)
副 会 長／高 橋 司 (クラブ奉仕B)
幹 事／若槻八十彦
S A A／西山徳 芳
会 計／小出子恵出

例会日／毎週水曜日12:30～
例会場及び事務局／
三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(“はshiftを押しながら“へ”のキーを
押してください)

■本日の出席会員数:57名中36名
■先々週出席率:87.50%

【先週のメイクアップ】

【5.2】三條東RCへ

・中村和彦さん、斎藤弘文さん、
・高橋 司さん、衛藤泰男さん、
・歸山 肇さん、阿部吉弘さん
(6名)

【5.2】燕RCへ

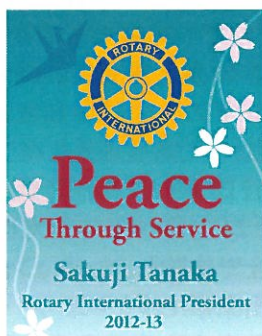
・荻根澤隆雄さん、加藤紋次郎さん、
・木村文夫さん
(3名)

【5.2】三條ローターアクトへ

・若槻八十彦さん

【5.7】三條北RCへ

・斎藤弘文さん、中林順一さん、
・五十嵐晋三さん、中村光一さん、
・丸山行彦さん、山田富義さん、
・加藤紋次郎さん、熊倉昌平さん、
・松永一義さん、小出子恵出さん、
・藤田紘一さん
(11名)



「奉仕を通じて平和を」

2012～2013年度国際ロータリーのテーマ

「早春の福山にて」



荻根澤隆雄 会員より

会 長 挨拶

杉山幸英 会長



皆さんこんにちは、挨拶申し上げます。

先日、藤田説量パストガバナーの追悼号を送り致しました。お礼状が藤田さんの息子さんより届きましたので御報告申し上げます。

春の大型連休も終わりました。私の会社の周りの水田は連休中に田植えがほぼ終わりました。残っているのは奥手水稻の水田

のみです。

私の若い頃、建設従事者は兼業農家の方が多くおられ休憩の時は農作業の話をされておりました。最初の頃は、全く内容は分かりませんでしたが、話を聞いている内に大体は分かるようになりました。最初に田植え用の苗を作り、次にトラクターで田打をし、次にしろかきと言って田植えが出来る様に土を細かくし、かつ平にします。次に田植えを行いその後肥料、除草剤、水の管理を行い9月になるとコンバインで稲刈りをを行います。コンバインは稲刈り、脱穀を同時に行い他にバインダーと言って稲を刈り束ねる機械があります。それを乾燥機にかけ乾燥後、農協に出荷します。

農業従事者でない私でも分かるようになりました。

来週5月15日の三條祭りは晴れのお天気になりますようお祈り申し上げます。

挨拶を終わります。

幹事報告

若槻八十彦 幹事

◎次週15日(水)は、**クラブ休会**です。お間違えのないようお願い致します。

ニコニコBOX

杉山幸英さん

来週の5/15三条祭の日は晴れますように。

浅野会員卓話楽しみにしております。

小越憲泰さん

GWはゴルフ三昧でした。帰りにあしかがフラワーパークで樹齢145年の大藤棚を見て、益子で陶器市も見学しました。斎藤さん、いつもありがとうございます御座いました。

荻根沢隆雄さん

中村さんから連休中に安曇野で大変良い所へ案内して頂きました。ありがとうございました。

浅野さん卓話、期待致しております。

渡辺 稔さん

小生の話をご静聴頂きありがとうございました。

卓話は聞かせてもらうのが良いなと思いました。

浅野さんありがとうございます。

山田富義さん

メガネを若者用に交換しました。

浅野さん卓話ご苦労様です。

斎藤弘文さん

ゴールデンウィークに仲間8人で栃木県でゴルフを楽しみました。

菊池 渉さん

どこへも行かず、何もせず。最高のゴールデンウィークでした。

樺山 仁さん

ゴールデンウィークも終わり仕事に精を出さねばならないが、未だ休みの延長が残っております。

本日の浅野会員の卓話に期待して。

関川 博さん

愚息が自動車免許を取りました。初ドライブは善光寺。生きて帰りました。

浅野さん卓話楽しみにしています。

吉井直樹さん

五月晴れに気分は上々！

草刈りに参加できずに申し訳ありません。

本日浅野会員、宜しくお願いします。

阿部吉弘さん

マルシェありがとうございました。おかげ様で完売しました。次回一ノ木戸のマルシェにも出店予定ですのでよろしくお願いします。

浅野さん卓話よろしくお願いします。

五十嵐晋三さん、金子俊郎さん、五十嵐博宣さん
木村文夫さん、若槻八十彦さん、会田二郎さん
五十嵐昭一さん、大沼公成さん、熊倉昌平さん
船越正夫さん、伊藤寛一さん、渡辺勝利さん
佐野勝榮さん、渡辺良一さん、明田川賢一さん
浅野会員、本日は卓話ありがとうございます。

お話楽しみにしております。

5月8日分 ￥ 31,000

今年度累計 ￥1,225,000

「卓 話」

浅野 金治 会員

通じて平利



皆さんこんにちは。私が、三条ロータリークラブに入会してから、早いもので、この7月で10年になります。

この10年間、ロータリークラブで、楽しいこと苦痛なこと、いろいろありましたが、私にとって一番苦痛なことは、卓話が回って来ることです。この10年間、卓話から逃げられた秘訣は、その年のプログラム委員長に“近づかない、話さない、目を合わせない”という三原則を守って、10年間逃れてきましたが、今年度は油断しました。ある夜例会の二次会で、菊池さんが私の前に座り、おもむろに浅野さん「そろそろ どう？」と言われたので「そろそろってなんですか？」と尋ねたところ「卓話だよ、だいぶやってねえろ」と言われ、たしかに、10年近く逃げていましたし、だいぶ酒の方もまわっていたので、ちょっと強気になり、卓話を受けてしまいました。酒さえ飲んでいなければ、どうにか、かわしたのに、今となっては、残念に思っています。

そこで、何を話そうかと、いろいろ考えたのですが、皆さんが一般的に興味のある、中国の話がいいのかと思います、私の体験した中国の話をします。

私が仕事で中国に通ったのは、この20年位前からです。北から南、内陸、砂漠に近い所、訪問した会社は、およそ80社位だと思います。当時の工場の、一般ワーカーの月給は、6千円位の工賃でした。今は3万～3万5千円位ですので、20年で5倍から6倍になっています。私も日本の高度成長を、経験しましたが、それ以上のスピードの、中国の高度成長も見てきました。当然、中国なので高度成長には、表と裏、ヒズミがあります。今日は、その裏とヒズミの部分を紹介します。

私が訪れた、ある会社で体験した、ちょっと怖い、ショッキングな一日の出来事です。

それは、一通の招待状から始まりました。

台湾のある会社が中国の田舎に工場を建てたので、ぜひとも、浅野先生には来社され工場を見学し今後

の取引を願いたい。浅野先生の来社を歓迎いたします。との招待状が届きました。日本では、手紙の敬称は、様、殿ですが台湾では先生です。それで招待状も、浅野先生になったわけです。当社も、ちょうど、この工場が生産する商品が欲しかったので訪問することに決めました。工場の場所は遼寧省で、一番近い空港は瀋陽です。そこから車で6時間かかる、本当の田舎です。

日本から瀋陽空港までの直行便がなくて、一番楽な便を調べたら、富山―大連 大連―瀋陽の便があり、そのチケットを手配しました。

三条から富山空港まで車で2時間半です。成田まで行かなくても、非常に便利でした。瀋陽空港に着きましたら、その工場の日本の担当者、ドライバー、通訳が3人で迎えに来ており、それから工場までの6時間の車の移動が始まりました。

瀋陽の町を出て、その工場に向かったのですが、とにかく真っ直ぐの一本道です。そうこうしていると通訳が「あさのさーん」、あの右手に見える村には、キョンシーが出るんですよ。「あさのさーん」、キョンシーってわかりますか？ えっ キョンシーって、香港映画に出てくる、額にお札をつけて、両腕を真っ直ぐに伸ばして、ピョンピョンと跳ねて前に行く死者のことですか？と通訳に尋ねると、その通りキョンシーが出るんですよ。私はさらに、じゃあキョンシーを、見たことがありますかと、尋ねたら、通訳は急に顔色を変えて、大きな声で“とんでもない、キョンシーを見たものは、死ぬんですよ。”誰も見たものはいません。と通訳が言うので、私は、じゃあたまたま見てしまったら、どうなりますか？また尋ねると、通訳がそれは大丈夫、キョンシーが出るときは、村中にふれが回るんですよ。何月何日何時頃、キョンシーが出ます。村の人はその日その時間は、家を出ないです。まあ、日本の回覧板みたいな物があって、村中にお知らせするようです。キョンシーという習慣がこの村で、現在あるかどうか、わかりませんが、過去には習慣があったことは間違いないようです。

ひたすら、2月のマイナス20度の一本道を、高速のように走っていくと、いくつかの集落を通り過ぎていきます。車に乗っていると臭いで、そろそろ次の集落があるのに、気が付きます。その臭いは、石炭が不完全燃焼して、鼻にツーンとくる刺激臭です。刺激臭の次は、車の前方にキノコ状のスモックに、おおわれています。そのスモックの中に入っていくと、集落があり、家々がぼんやりと見えてきます。つまり、次の集落があることがわかるのは、不完全燃焼の刺激臭で気が付き、そのあと、キノコ状のスモックが見え、そのスモック中に集落がある、この繰り返しでいくつかの集落を通り過ぎていきました。あとで

トイレ休憩の時その石炭を見たのですが人間の頭くらいの大きさのものが、ゴロゴロと山積みされており、よくよく観察してみると、その頭くらいの石炭は、不純物4割、石炭部分が6割。とても、日本では商品にならない物でした。今年の春先、北京の大気汚染が、話題になりましたが、これは北京だけではなく、むしろ地方の方が深刻ではないかと思います。このような地方で貧しい人たちが、灯油、ガス、まして電気で、暖房が取れるわけがありません。私は中国からの大気汚染はなくならないと思っています。

空港から、ひたすら車に乗り6時間、ようやく工場に着いたのですが、すでに日が落ち、まずはチェックインしようとホテルのフロントで行ったのですが、この田舎町に外国人が来るのは、とても珍しくて、フロントの係りが、宿泊カードに記入する仕方がわからず、長時間待たされ、疲れていた私には辛かったです。両替もしたかったのですが、なんせ、この田舎のホテルなので、日本円、ドルなど、持っているわけがありません。両替で困っていたら、通訳の手持ちのお金を、いくらか両替してくれたのですが、レート換算をしようと計算機を出したのですが、使えないのです。今の計算機はソーラーですので、このホテルの照明では、反応しないのです。しょうがないので、フロントの照明に背伸びしてあてて計算しました。

中国の電力不足は慢性的で、都会より地方の方が深刻だと思います。

その後、このホテルのレストランで、この工場の社長が、私の歓迎会を開いてくれたのですが、歓迎会のメンバーは、工場の関係者のほか、その市の有力者が出で来るのが一般的です。

工場の社長の歓迎の口上があり乾杯で宴会が始まり、中国の白酒（パイチュウ）で乾杯、乾杯の嵐でした。

宴会も30分したところに、工場の関係者が、バタバタとやって来て、何か事件があったようで、社長に大きな声で報告していました。なにがあったか通訳に尋ねたら、この市の、有力の役人が、交通事故にあったけど、幸せな人だ、ラッキーな人だと言っているんです。日本的で考えれば、「この有力な役人が、交通事故にあったけど、不幸中の幸いで、怪我がたいたことでないので、幸せな人、ラッキーな人なんですか。」と聞いたら通訳はそういうことではなく、この役人はこの交通事故で、大金持ちになれるんです。中国の役人は、自分の任期中にどれだけ多くの、冠婚葬祭があるかで、金持ちになれるかが決まるんです。この事故で、いろいろな関係者の何百人から、お見舞いがもらえるんです。「あさのさーん」お見舞金は、表の金でしょう。ワイロ、袖の下、アンダーザテー

ブルのような、裏の金でもないし、収賄のような犯罪でもない。それでこの役人は、この交通事故で沢山のお金が集まり、金持ちになれるから、幸せな人だ、ラッキーな人だということなんです。

そうか冠婚葬祭の祝儀、お見舞い、香典など、確かに表の金だし、税金も掛からないと、感心していたところ、社長は、少し酔いが回ったのでしょうか、浅野さん話を聞いてください、ということで、実は先月、この市の市長の長男の結婚式があって、いくら祝儀を出したと思います。計算機を取りだして、日本のレートで換算してくれて、なんと日本円で80万円ですよ。わたしは一桁、まちがえているのではないかと、8万円ですかと、聞き返したら、社長はもう一度計算機を、叩き直して、間違いなく日本円で、80万円だということでした。当時のレートは一元＝15～16円位なので、たぶん、中国の元で5万元だったと思います。じゃ、その祝儀の金額は、社長が決めたのですかと尋ねると、とんでもない、向こうの方から金額指定されるそうです。

市長の長男の結婚式は、この市の冠婚葬祭のレベルでは最高レベル、呼ばれる私は、この市で工場をやっていますので、呼ばれる方の最高レベルなので、それで、このような請求書が来るんです。また社長は嘆きながら、浅野さん聞いてください、私の仕事の半分は、工場を経営すること、もう半分が、この市の冠婚葬祭で費やすことです。今では、冠婚葬祭のかかわるリストが200名を越し、パソコンで管理していますよ。だんだん毎年エスカレートしているんです。

レストランでの歓迎会も終わりに近づいたところ、社長が、浅野さん、まだ飲み足りないでしょ、二階のダンスホールに行きませんか。日本でいう、二次会になりました。ホテルの一階はレストラン、二階はダンスホールになっていました。そのダンスホールは、昔の日本のキャバレーを思い出してもらえば、想像できると思います。前方には楽団がいて、中央にはダンスフロアー、その周りにボックスにソファがあるスタイルです。みんなでボックスに座って、ここでやっと、パイチューウ以外のお酒が飲めるようになり、私はウイスキーの水割りを飲んでいたら、また通訳が「あさのさーん」このホテルは、いいホテルなんですよ。“このホテルは、ヤクザが管理しているから、警察が立ち寄らないので、良く寝られますよ” えっ 通訳は、今たしかに“このホテルは、ヤクザが管理して、警察が立ち寄らないので、良く寝られる”と言ったよな、日

本的に考えれば、“このホテルは、警察が管理しているので、ヤクザが来ないから、よく眠られる”だよな、この通訳も疲れがでて、酒が回ってきて、ヤクザと警察を反対に言ったうんだろうと思いました。いやいや、ここは中国、なにがあってもおかしくはない、再度尋ねたら、やはり通訳は“このホテルは、ヤクザが管理しているので、警察が立ち寄らないので、良く寝られます”と同じ答えでした。私は、ほかに、このような話は、聞いたことがあったことを思い出した。うちの会社の取引している韓国人が中国に行くと、いつも寝不足になると、よく嘆いていました。ホテルに泊まると、必ず警察が来て、部屋にドサドサと入りこみ、職務質問というイジワルをするそうです。チップみたいにお金を渡すと、スーといなくなり、それが毎日来て、何時に来るかわからない。夜中に来る時もあるって、ひどい日はメンバーが変わって、日に二回来ることもあり、とても休めない。警察にチップ、袖の下を取られるのは、しょうがないとしても、例えば三泊四日なら、初日に、4日分前払するから、毎日夜は来ないでほしい、などこぼしていたのを思い出して、このホテルはヤクザが管理して、なんらかの形で警察に一括して上納しているの、このホテルはヤクザが管理しているので、警察が来ないので良く寝られる、ということが納得できました。しかるに、この話をほかの中国通の人に話したら、一番安心できるのは軍が管理しているホテルだそうです。

二次会が終わり、部屋に入ってホットしました。

私にとって今日の中国の一日は、衝撃的であり、奇妙な出来事に感じました。しかし、彼らは、それが当たり前の様に、いつもの通り生活しています。慣習、ルール、マナーがこれほど違うのかと痛感させられました。もし、世界が国際的なルール、マナーという基準のものさしを作られたとしても、それで中国を計っても無理なことだと思います。まして日本製の、精度のよいものさしでは計れるわけがない。中国とのつきあいで、これがベストなどという答えはないと思います。時には寛容に、時には臨機応変に、答えがないことが、答えだと思います。しかし、その中で脈々と生活をしている人たちがいることは事実であるし、理解しなければなりません。ということで私の中国レポートを終わりたいと思います。

本日は貴重な時間をいただきましてありがとうございます。

次週例会 5月29日 「外部卓話」
三条地域若者サポートステーション
総括コーディネーター 佐藤道代 様

次々週例会 6月5日 「外部卓話」
NPO法人エコロジーネットワーク
理事長 片岡廣夫 様

